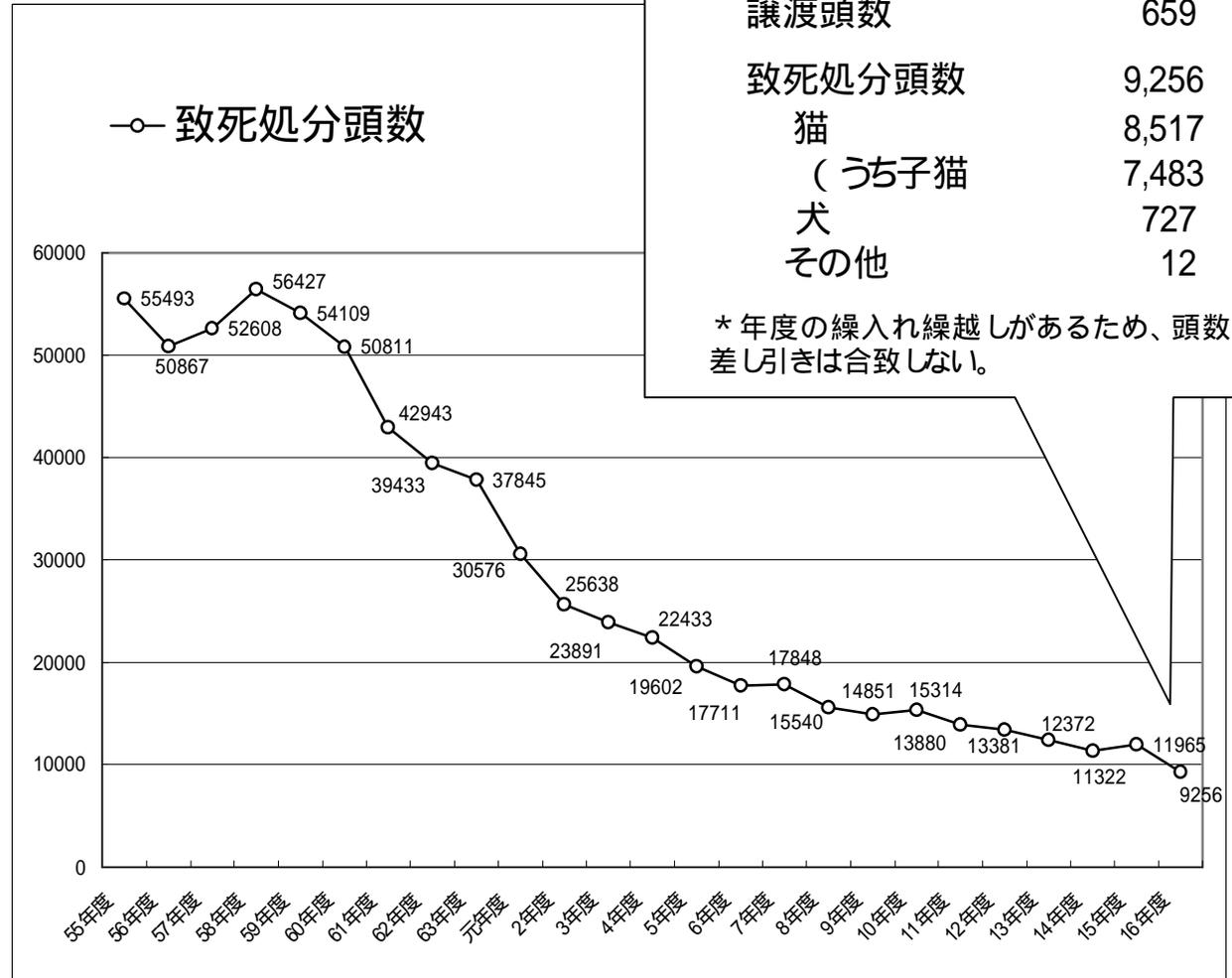
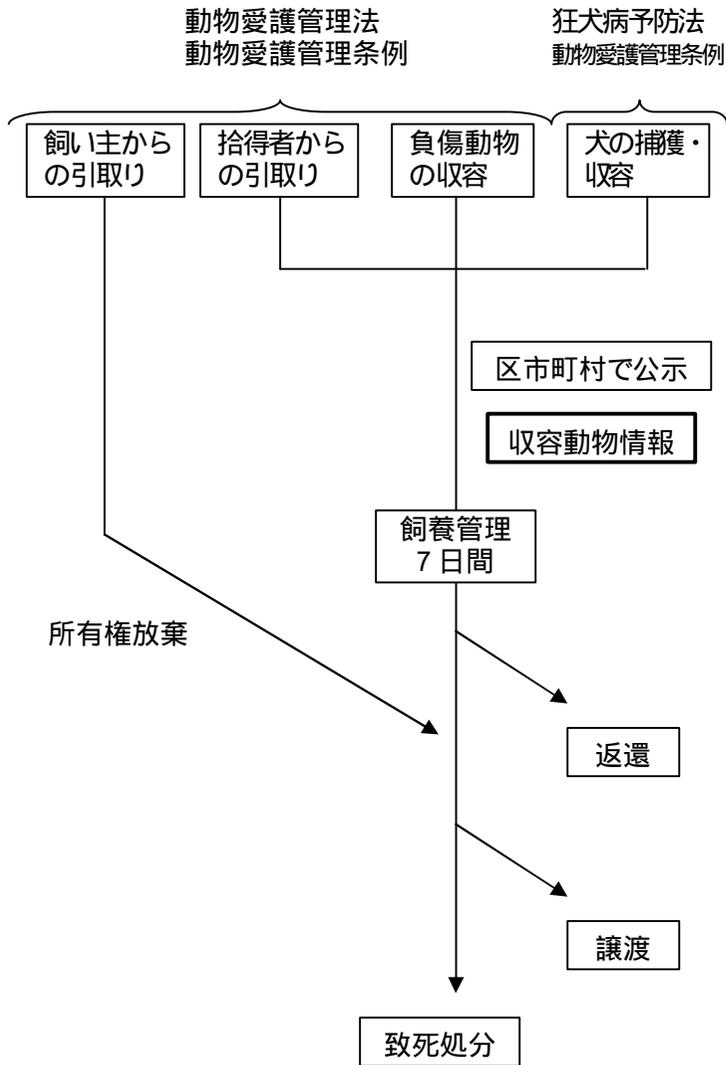


# 取扱い頭数、致死処分頭数（動物愛護相談センター）



16年度

総取扱い頭数 (引取り・收容等) 11,876

返還頭数 1,963

譲渡頭数 659

致死処分頭数 9,256

猫 8,517

(うち子猫 7,483)

犬 727

その他 12

\* 年度の繰入れ繰越しがあるため、頭数の差し引きは合致しない。

## 犬の登録、狂犬病予防注射の実施状況

### 【東京都】

年度	登録頭数	予防注射頭数	接種率
11年度	310,676	248,726	80.1%
12年度	322,315	247,540	76.8%
13年度	335,644	259,241	77.2%
14年度	353,020	266,890	75.6%
15年度	372,841	281,942	75.6%
16年度	393,333	296,513	75.4%

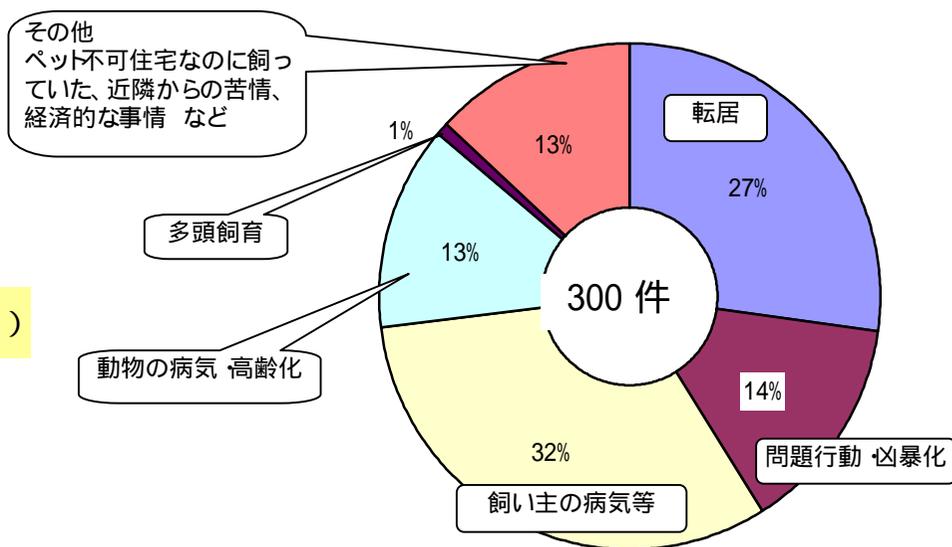
### 【全国】

年度	登録頭数	予防注射頭数	接種率
11年度	5,645,424	4,578,277	81.1%
12年度	5,779,462	4,606,527	79.7%
13年度	5,939,595	4,646,046	78.2%
14年度	6,084,731	4,681,524	76.9%
15年度	6,262,510	4,741,488	75.7%
16年度	6,394,226	4,799,555	75.1%

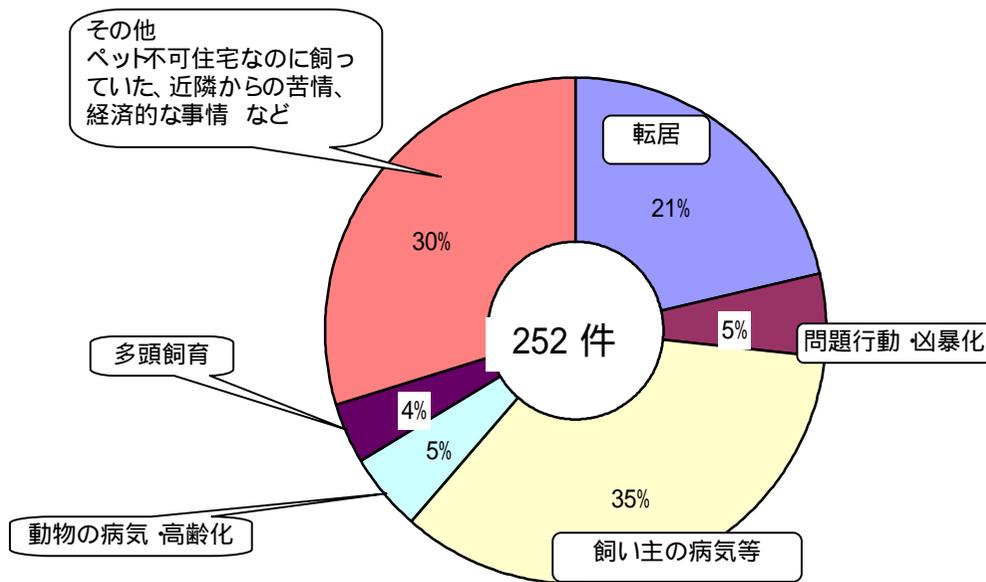
(厚生労働省統計)

# 飼い主からの引取りの理由 (動物愛護相談センター 平成16年度)

## 犬 (成犬)



## 猫 (成猫)



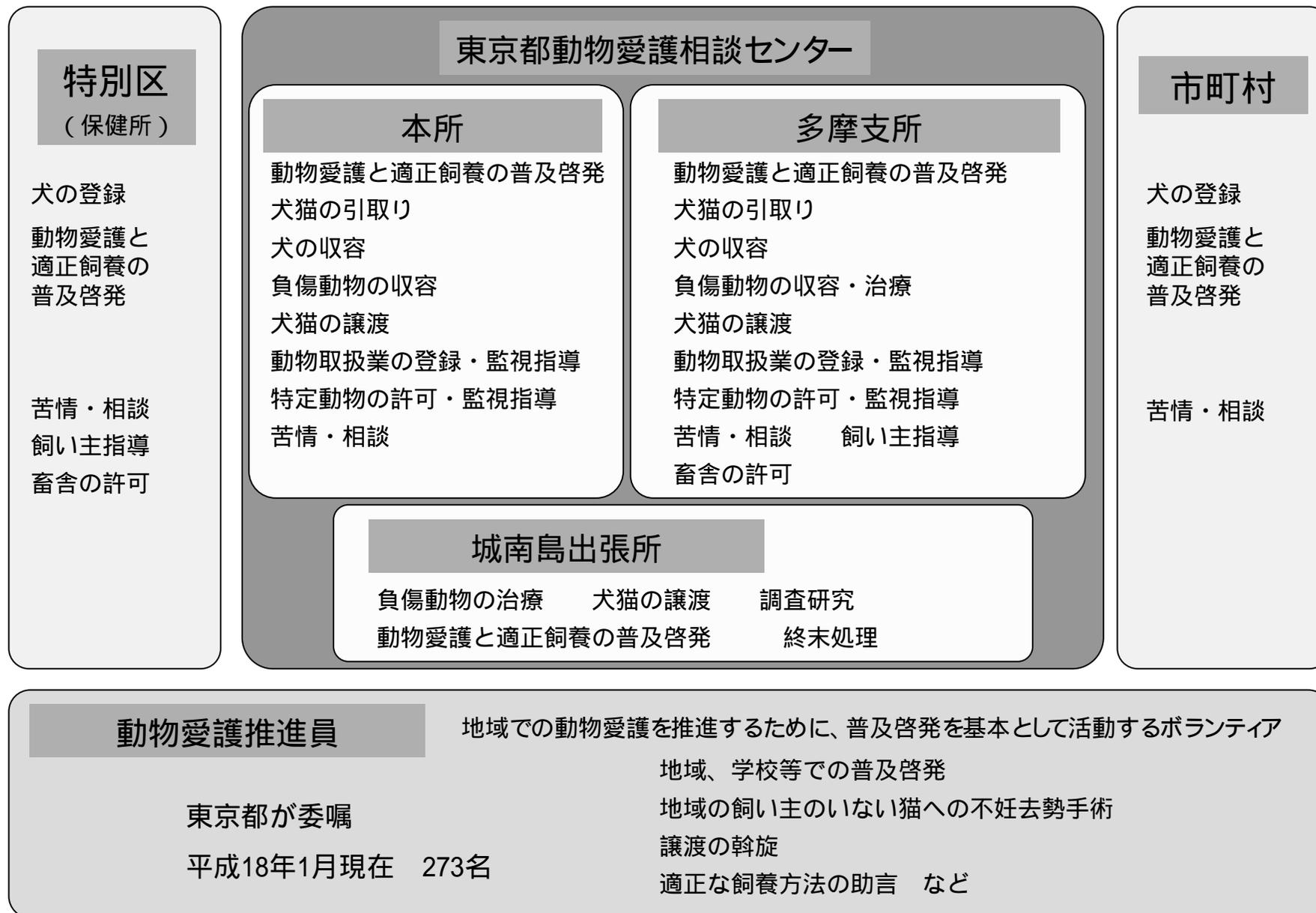
<参考> 平成3年度の引取り理由\*

理由	割合
転居	36%
問題行動・凶暴化	14%
近所からの苦情	14%
飼い主の病気等	11%
動物の病気・高齢化	8%
無回答、不明	17%

理由	割合
転居	20%
問題行動・凶暴化	20%
近所からの苦情	17%
飼い主の病気等	16%
動物の病気・高齢化	11%
無回答、不明	16%

\* 当時のセンター4支所のうち西部支所 (Q3区の西部地区)での調査から

# 動物愛護管理行政の役割分担



# 危機管理対策

## 1 動物由来感染症対策

東京都動物由来感染症検討会による計画と評価

病原体保有状況調査と侵入監視（動物愛護相談センター 健康安全研究センター）

- ・ 収容動物、動物取扱業等の病原体保有状況調査  
サルモネラ クラミジア 寄生虫 ブルセラ Q熱
- ・ 感染症の侵入に備えたサーベイランス  
ウエストナイル熱

動物由来感染症発生時対応（動物愛護相談センター 保健所 健康安全研究センター）

- ・ 動物の追跡調査、飼養者・動物販売業関係者に対する飼養指導等
- ・ 患者発生時の疫学調査

平成15年	6件	サル痘 オウム病* ウエストナイル熱 重症急性呼吸器症候群 (SARS)
平成16年	2件	オウム病* 高病原性鳥インフルエンザ
平成17年	7件	細菌性赤痢 オウム病* レプトスピラ症*

\* 人の患者発生があったもの

さらに感染症が大規模、広域に発生した場合の備え

動物由来感染症対策の体制整備

## 2 災害発生時の対応

